

開卷驚奇俠客傳

第四集

貳

12
25
15

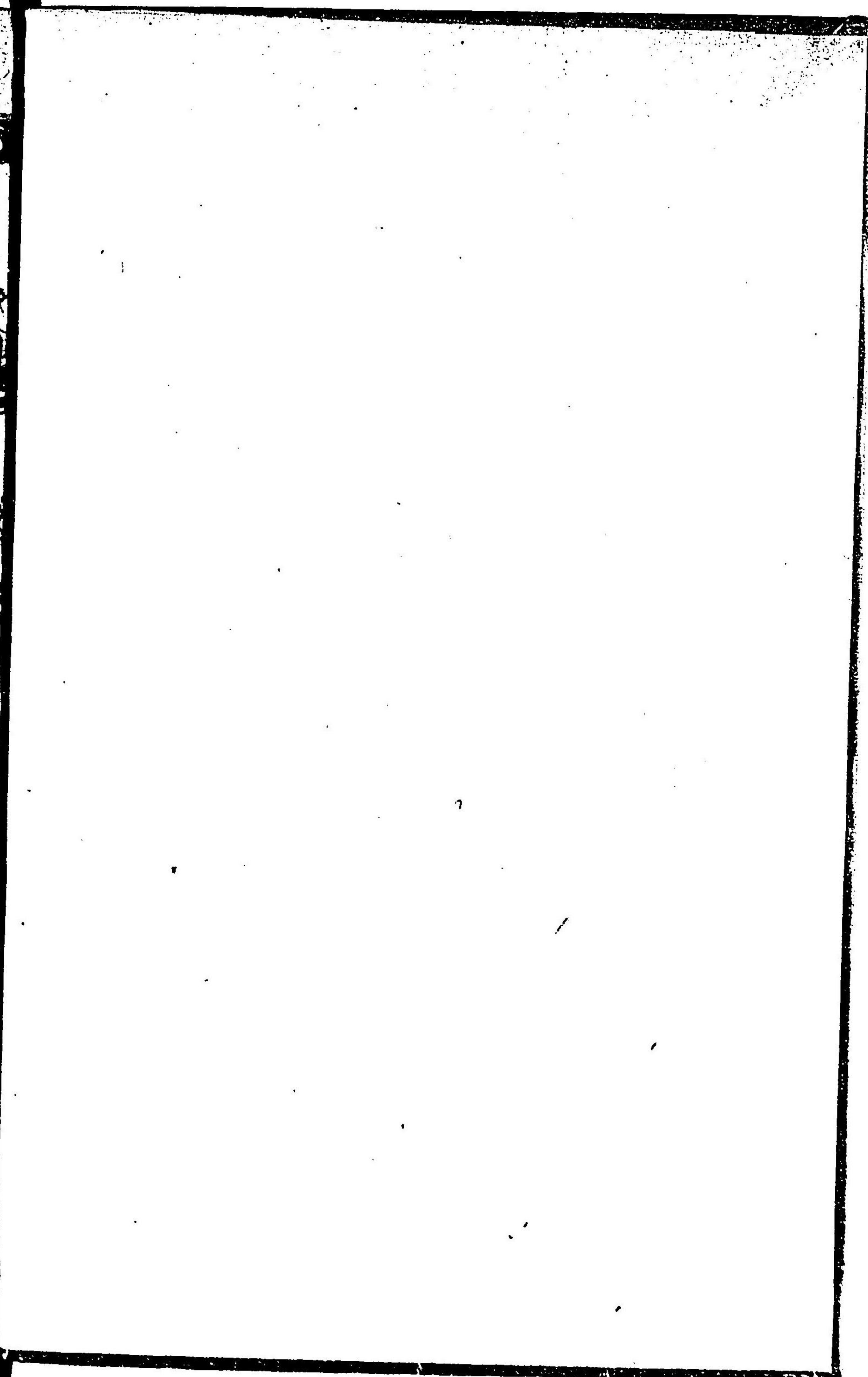
東 京 圖 書 館

和書門	小說類	函	架	號	冊
	二六	三	二	五	二

開卷驚奇俠客傳

卷一

一





開卷驚奇俠客傳第四集卷之二

明治十一年交換

東都 曲亭主人編次

第三十回 姑摩姫莎庭の四賊を斬る

復一即後門の石枝を逞む

閣客話紹玉説楠姑摩姫の姪母縫殿が卒哭忌の追薦の輿かとも如意宝珠院へ詣る

その折従父女果楠甘子子が痘瘡を患ふる喜の趣及その八字生來を憶むの事知りて宿野かへつたる夜の夜分人定の鐘の响く時候獨臥房へ入りたる折に庭の鳴く虫の音も忽然として

殺氣あり姑摩姫枕を敲て怪しや今宵の要アそあらと多分のうさ寤の鬧が更人圍るまで

寐も睡りも小雲雲時由断せざりけ却這段の第三集卷の四の尾のきれが看官兼知れること

重て這里の復せし約との間多の五十槌電次隆光們が事及長總と鈴笠小夜二郎と木綿張

荷二郎們が事の顛末を鮮ゆ分たより言らるると其頭の趣を這那と云く具かして更み

不トらら王トトすそとたそく

不トらら王トトすそとたそく

第三集の四の巻の尾の續々たる看官前後を照くくたる。間話除敏系介程の姑麻の姫の
 臥の外面の心と配る。夜の既小子二刻るんとする時候殺氣盛なる。かづらちも置れど身を
 起して帯引結び裾短小結膝の枕邊の護身刀を腰に帯て獨情々地の書院なる。
 縁類小立出く雨戸一枚開く。庭草履を搔撈る小穿捨りける板金剛の二隻履履石の
 上ありしと身夜中の白く細なる脚指頭を引穿て徐小出て前栽の樹の蔭假山の影ま
 ても送を隈るくち巡る程の忽地庭門の外面ありて釣索をち截るとかなく。堵の乘り
 けち下り立て潜る。二人ありけり是則別入る。初五斗植隆光が遣一する。那念珠七
 とる。蚤介の姑麻の姫の日光をさくも是と未透一見て原來那奴們的偷見をん。引着る
 捕捕らめと以へ開く。氣色もる。書院の方小退して樹蔭の立ち等程の件は念珠七を
 介の任をさくと思ひの。送は耳に領た。俱小檐下小身を寄て内の唐実を知んとく。
 雨戸の耳を傾る。背後の烈に女子の一聲聲癡者等と喚拭られて駭はる。三賊の周章

松小残の雪る。星月光の白影の那姑麻の姫をんと思へ。不覚胆落て。十
 二分の鬼胎あり然と逃る。脱くせと。思ひて。左右別る。歩快く。鼓の合せ。抜抜る。
 破らんと。抜む。刀の光。姑麻の姫の小松を指の遣達。引外へ。見光りと。引抜く。短刀の光の。涙の
 も届く。空鼓も。念珠七の猫見。白乳の断末。麻胸を刺れて。仰る。小介と息の絶け。
 蚤介。これの。怯れて。吐嗟と。一足飛。逃ると。姑麻の姫。透して。十歩も。走らせ。せ。丁と。鼓
 たる。銑鏡の。鳥夜の。狂の。修煉の。短刀。快と。宛罷火の。如く。閃め。程の。蚤介の。背より。く。何月前
 まも。鏢。際。迫て。鼓を。串れて。身と。及ら。苦と。叫ぶ。聲も。引も。死に。けり。姑麻の。姫の。思ひの。隨。既
 二賊。鼓。捕り。先。蚤介。の。屍骸の。遺。立。よる。短刀の。柄を。探ら。抜合。て。則。賊の。袖を。見
 鮮血を。拭。鞋の。收め。舊の。外。か。の。来て。初。小。敷。一。個の。賊の。も。搔撈。り。引。起。き。踏。く
 窮所を。刺れ。身。の。冷。て。氣息。平。恠。たる。小。賊。們。の。牛。の。刀。を。用。ひ。入。過。り。けり。突
 放。せ。ば。又。倒。る。と。も。か。く。天。明。て。後。ま。安。次。們。の。れ。ら。の。よ。と。告。知。せ。ん。と。思。へ。る。も。悄。々。と。夜

原來事を知られ疾と速の猜と毫も猶豫せず先小枝を降成し敷せんとて星明夜を
 星へ使ひの編歩へ引提たつて朴刀を抜放めて走り寄る。目前は光く敵の刃は亂坊八丁と受
 流しと面三合戦はけり。余程の姑麻姫の腰帯を短刀を抜もきを瞬間一個の賊の頭顛を落
 せし折つて又後方より走來る賊あり。知れぬと慌る色もなき踵を旋して抜きの血刀を
 身皮の堂天を閃き勢ひ當るるもあつて一せ亂坊八丁辛くと。僅に挑戰せり。素より是劍
 俠女子の敵は不足のるなれば死地に入る。劍身も露光をば世の夢野竟た。

牡鹿の角の束は間痛癢四五所肩へ。飲まきなく引外へ。庭門投て逃走。姑麻姫の
 脱下と趕推りつ背より。韓竹割を砍伏せり。這時も高麗結城草の鳴り
 音のあつて。和合て殺氣も立てる。一多姑麻姫耳を傾けて今一も信奴們が支隊の又啓
 入るを躰れる。夜や深ぬら。仰々天晴耳の許多は星を稍久く眺る。眉を擡
 めて思ふ。怪し。今もる。賊星女宿を犯たら。猜をも強人の頭領もあつて。

小嘯囉。這方の虚実と張現を遣一なる。尙も程も。衆賊の打入
 ともあつて。一方より来るもの。幾十人の。我軍身を對治せん。か
 後の門より稠入る。安次們的不意と敷されて防衛も便りを失せ。告
 尋思とあつて。一多引提る。血刀を屍骸の邊に投棄して書院まか
 たる処より指燭を外面の差おと。看るもの。誰やと。垣衣を遠く外
 姫の京ま。あ次の間の臥室。と。知れり。一多密打風の敷馬の臥房の
 亮の用れて。おれ。灯光の刺さる。と。一多。と。指燭も。と。

指燭も。と。一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。

一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。一多。と。

あつてなほ安次もあつてなりと準備をせんとす。折俱も所が、と合を成存の程、満
 屋復一即安次の垣衣の喚覚を以て訝らる。遠く起て、身を焚き穿たる燭と身と。那垣
 索ひて、這里から来た。姑麻の姫の縁類も、中戸一枚線用が、尻を拭て安次も、垣衣と俣備
 坐して却癖者、西入も、敷の果一なる支の趣首の尾まで、箇様々と報知を、よす。鮮示
 安次の垣衣の駭然として耳を傾け、亦凡夫の所必るべし。連ぬ知、男の感嘆、う。恙なき
 今宵の首尾を祝と俣、熱がる。當下姑麻の姫又の、既我猜せ、如く、件の四個の癖者、仇
 主人の満れる、刺客め、あつて、又、驚き、偷見する。必、頭領め、重打入、の、あつて、
 由の前後の門より、襲る。容、飲料、か、その、配、後、を、せ、の、癖者、を、生、拘、入、と、
 ぶ。勢、林、め、く、と、皆、敷、の、果、一、つ、れ、今、や、の、突、敷、の、照、驗、を、を、鈍、し、け、れ、先、の、屍、骸、を、檢、
 べ。よ、ふ、安、次、を、ら、る、燭、を、接、て、身、を、起、せ、垣、衣、の、共、召、の、主、俣、一、の、庭、回、の、書、院、の、近、た、樹、の、下、
 の、庭、門、の、這、方、を、破、け、し、れ、る、四、賊、の、屍、骸、の、鮮、血、を、塗、れ、横、に、た、れ、り。姑、麻、の、姫、の、亦、の、折、火、光、

就よく視る。初敷を捕らう。二人の、嘘、囁、を、と、あ、あ、を、き、
 る。合、を、く、れ、れ、火、硝、を、又、後、の、敷、の、果、一、の、兩、個、の、賊、の、名、の、の、後、と、か、が、く、て、打、扮、特、物、を、
 け、が、這、們、の、腰、の、火、器、と、帶、たり。姑、麻、の、姫、の、安、次、の、件、の、四、箇、の、火、器、を、合、一、と、書、院、か、か、つ、入、と、せ、
 折、安、次、の、破、ら、れ、る、庭、門、の、戸、を、引、寄、せ、と、遠、く、走、り、か、つ、と、姑、麻、の、姫、と、喚、禁、め、那、里、那、依、
 措、が、我、を、よ、ぶ、よ、め、れ、と、の、安、次、阿、と、心、を、後、方、に、従、ひ、ら、り、依、而、姑、麻、の、姫、の、縁、類、の、書、
 院、へ、入、り、も、初、の、如、く、中、の、兩、戸、を、閉、ぎ、て、却、安、次、の、示、を、う、敷、め、れる、癖、者、們、の、腰、の、火、器、を、帶、
 必、是、火、を、放、ち、暗、號、を、ま、ま、の、俣、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、の、事、
 うち、寄、束、つ、べ、い、開、く、庭、門、より、細、入、る。我、單、身、を、對、治、せ、し、借、を、用、う、ら、う、ら、う、の、は、這、里、の、一、と、遠、
 か、ね、の、口、の、成、り、を、置、め、め、及、び、其、門、の、復、一、の、屬、を、相、入、賊、の、あ、る、が、襖、を、用、て、敷、の、退、け、垣、
 衣、の、婢、妾、を、徐、々、と、喚、覚、す。這、趣、を、告、知、し、期、を、臨、む、の、間、を、ま、ま、の、賊、を、漫、々、と、駭、聞、く、
 不、覺、の、罪、を、許、か、ら、う、豫、の、を、誠、に、い、ふ。今、よ、う、く、獨、身、の、あ、ん、限、の、准、備、と、衆、賊、の、あ、

心魂長谷部信連ともいひつゝ。凛然たる威風四下と拂て罵詈雑言の聲もいふ。来りては是甚
 瘼ある者ぞ我精一。強盜毎女性主人と侮て。龍の鬚を援ふ。血けしと地方の民の
 與小患を懐ふ。我を誰とらんと。這九柱の姫上り。護身相傳忠義の壯士。隅屋復二郎安
 次。此は在り然りと。知らざる夏虫の火虫に似たる天の兵罰。逃る小脚のめれ。二歩との走を見
 や。首を柱て刃を受ふ。いせも果む。水拵頭三怒れる。胸聲ぬりて。暗き青猿の前門の隊の
 火家。我より先小桐入。姑麻の姫と。較ぶる。捕らふ物。在る。單身ゆ。防びて。命
 惜る。千金。逃す。て。まの音。提を。吊ひ。ね。と。不。兼。知。の。不。の。字。も。ぬ。び。ひ。ひ。ひ。和。郎。の。の。圍。宅。の。男。は
 皆屠ん。大家本。夏を。又。き。と。罵。の。聲。と。共。侶。は。吐。と。唾。を。一。小。嘍。囉。敵。と。一。人。と。侮。り。と。ひ。め。く
 兵器を打振る。左右小。牆。あり。通路。と。皆。後。れ。と。競。ひ。蒐。る。と。安。次。の。物。も。甘。ん。准。備。の。小
 龍。小。野。る。小。石。と。抗。を。礮。と。打。つ。修。煉。錯。つ。と。先。小。我。と。賊。の。額。を。打。破。ら。れ。て。苦。と。叫
 び。て。仆。れ。り。程。も。あ。ら。せ。と。又。打。出。す。板。石。多。數。の。飛。ぶ。如。く。瞬。間。の。六。七。人。の。窮。所。を。打。れ。眼。眩。ま。て。象

欠

MISSING

我靡けり。秘術の大刀風その刃尖る當るの真額刺子割車創或大袈裟割殿の腦
 將出く死すもさく然るぬの深瘡平張俯て殘寡あり一か隆光焦燥短槍をもち
 振り暴たる獅々の高山嶺より降き如た勢ひ猛く只一鎗ふと突搦る姑麻姫囚りと身を
 反しと打拂々々。一上二下と戦ふる刃の鈍九寸五分多護身刀のゆるさどもち振る毎小虹
 電の天の横さふ異なるる胸を刺んと欲まればその刃胸の在の面を刺んと欲まればその刃亦面部を
 掩ふ或の長く或の短く一身通て透間され隆光心散驚て眼瞋腕衰へ殘瘡を肩
 たるのさるる鐘の煙巻吹棄られて既危く見えりける信の程の雲館奇峯五白較振
 平の雨賊の初痛瘡を肩よりけられた庭の樹蔭に退て瘡口より流る鮮血を吸々息を助々
 在り頭領五十根隆光の姑麻姫を殺立られて既必死の光景多し樹間躲る透透一
 見て棄て逃入のさるる極めて俱走んと謀合の共侶の分枝駭し樹蔭を出て左右
 別れて散るんと找む姑麻姫もくさる先這奴們を殺拂んと果刃尖るを烈く左右の當

るを隙の隆光の幸しと必死と免れ夜紛れ逃く往方の知れがけの介程の奇山峯五振
 平の稍隆光と探ひければ引外へ走りて甲斐奇峯五の利もと眩も吹落されて仆
 る折るる身の天刀を膝を屈然と申して叫ひも果て死にけり振平これ駭慌て逃んとする
 便のゆるぎ柱入る力足らねばさるる度と失て左の肩より大袈裟吹かれて横地と三
 段の軀のまを仆せけの余の薄瘡を肩よりけり小嘯囁の逃亡て殺される賊徒十四五
 名隆成窟坊八念珠七蚤介奇峯五振平のゆえ小嘯囁八九名その中かまひ呼吸の絶る見
 絶ふ二名は過さゆりの五十根隆光の天羅網に漏れ小似れ他も亦是矢傷の鳥の衆賊
 大半討滅せられて勝田揚る鶏の聲庖福のく高くはまてを曉のうけの登時垣衣の
 素湯と茶碗の汲と茶托を載て遠く書院のてを姑麻姫の薦を利運を祝
 する飲ひのさるるもあつり然るが姑麻姫も垣衣が心利の拵を賞自若とて先血刀を
 洗んも軀を縁類のち登れ垣衣の浄の盤の水を刃の濺に横て鮮血を流しまはる程の隅

今に至りて汗顔至極の甲斐もなきに官府の吏の我左の右の提計に入這まの心安か
 ば一先きの屍骸を一檢せむとの安次をうらむ先かたの案内をて書院の庭より後門内
 まる臥横される衆賊の屍骸を送るを見せしむ正直連の賞賚の聲を絶し檢し果る
 舊の坐席かたのち却姑麻の姫がうち對しては一勝する主従の武藝勇敵賊徒をその
 身か兵具の言前短鎗を推して前後の門より乱入して數も果したるをねむ主従俱に薄瘃
 一介所肩のけり極て奇き京師の御沙汰軍より幸ひかへ正直の俱か面を起し一隊隊
 なるもの近屬は這地の故めて盜賊在る他所より来る幸士良久に安堵して夜も鎖ざと
 なるものされ昨夜猛可なる賊難のものをやんぞ左も右もわれ生拘られる瘡肩の賊は携
 向せし知るやあん兵毎快々牽坐よとの伴當士兵兼りぬと志と庭と花門の數をたつ四
 個の小噓囉を牽立束て縁頬近く推坐し正直の立おてはらくこれを見るか花門の數をたつ
 存一兩個の賊は一個の鼻を敷破られて齒も皆摧脱し其回を絶て志せむ又一個は噓囉の

右の頬より左まで敷を抜れられれば是もの息をゆるぎ又庭の樹の下に伏して存一兩個は賊の
 俱に深瘃を哀果て霜枯野邊の鳴く虫の音より為ゆる呼吸の暢いの一言葉句も招
 きて氣力たる瘡肩毎るられ携回竟る甲斐もあらず左右する程か中なる二賊は脆
 く息絶えぬ姑麻の姫の安次の瘡を肩せむと生拘らるり悔しく多る色ええて云とつけ
 正直を慰めて約莫は這四個の賊は深瘃の言古不便せぬ招せられども守護盛を
 処へ御示しと情々地の安敷せられ逃亡せむと件に賊の頭領も竟る擲捕らるる
 生口并に衆賊の首級と遊佐の城へ齎せしむと就盛を許し隅屋復へ共侶が那里へ赴
 く準備せむと外面見出るとわれ兵毎その敷れる強人の首を送る敷を落して頭立
 なるものあんとおが五個の首級を耳朶と穿て牌を附し我をを齎しと遊佐の城へ赴く
 土兵西二名は不信里を留めて快旃陀羅を召聚へ支使々と吩咐て賊の屍骸を棄
 ちるその餘のまの箇様を詞せしむ言示して一個の伴當を宿野へ走らる衆賊伏誅

趣を正直の妻室木石と女見苦子小報よけの浩如正直の宿所より炊たる戦飯を奴隷三四
 名の擔荷して多々の這里遣へければ士卒們領受合せて奴婢共茶を乞ひ結縛草上坐せり
 ぬ俱も腹を繕ふ程も正直も割を意を披き早飯を喫るとも侍者非常の折をれ東道の侍
 あらざる人言はれ奴婢奔走して庖厨の煙生常倍する元紛ひらうもわづらひの侍而已
 牌の左側は旗陀羅も取ひまゝ準備整ひぬとせよ正直の邊へ姑麻の姫の別を告面
 りの生虜も獲ふ乗して旗陀羅小れを昇し衆賊の首級を土兵們の推考してゆまび馬の
 ろ騎の遊佐の城へ赴く程も隅屋安次も身装して伴當を俱一相従ふ共路次をいそ
 ける介程や九村の莊客們の楠正直主従のかり去りおたは知りて又莊院の取合も衆賊對
 治の勢ひも喋々多く相述て農僕們と共侶も血流れる土を鋤て別壊を布更るといふ
 中へ番匠のあて破られる後門と書院の縁頗る雨戸も立地も修復せける姑麻の姫の村
 人の事毎も昔も忘れぬ心標と欽び感ども他并ある餘の奴婢も恁々と吩咐て這村人們

飯を吹し酒を喫し儘せり大家飽ま飲食として欽び演徳と稱へ各々宿所へ退りけり
 是より先正直の馬の足掻を早め遊佐の城へ入る程も先伴當と走りて正直非常の
 議よりて對面を請ふとせら折々遊佐河内守就盛向住所へ立出で那這多民の許を
 うり所て在りける楠正直來訪の姿もあつた。躬て退たて對面も王客の席定りて送る寒
 暖も演徳を相祝し看茶の礼の訖り時正直膝を打ち就盛より對面して昨夜九村を
 姑麻の姫の宿所へ強入り乱入り主僕前後の門内も相柱て許す數も捕ひて中頭
 領とがや一は賊の痕を肩から逃して送るその往來を知り又兩個の生口おれぬ深遠も哀りて
 ののふこの克つべものいり故に衆賊の出処姓名詮議の照驗をせよとの多處へ徇示され件れ
 金瘡ものも穿眼金りりぬ。擄捕とてかろはる下官の那大吏と報られより入馬を調へ
 緝捕の與る姓女の宿所へ騎着ていへども老吉果る後れ詳し知るよりまこれより
 姑麻の姫が家の若黨隅屋復二郎安次とそ者も件の生口首級を齎して許す及ぬ

那安次と口寄せて問ひて分明らかんと告ぐ。就盛うち町敷く大なる思ひ難なる
 眉と頻單りてそそ安うぬのふとい當郡より五十槍電次隆光との御主。他の武藝師表
 むくその性義侠の豪傑。これ這年来地方の鎮守。偷見と牙敷の捕へて敷く殺せり。まかり
 け。這地久く静謐也。士民安堵のあひて存りて。然る群賊の乱入。近來未
 聞の椿事。願ふ件の強人們の當園の山林を。躰居るものあり。他御より。本意。思當
 る。縦その金。瘡と照驗ふ。多く。余國の知。信地也。捕捕人の。か。ふ。べ。ま。れ。の。且
 梟首の。面。言。秘。措。て。情。地。餘。類。と。穿。敷。せ。ん。の。復。一。と。若。黨。の。衆。賊。乱。入。此
 光景を。鞆。回。る。便。具。も。あ。ん。誰。う。在。る。の。後。生。と。快。々。召。ね。ら。せ。り。立。れ。遊。佐。の。郎。黨。向
 と。共。一。次。の。間。か。扣。居。る。安。次。と。わ。れ。找。め。け。の。登。時。遊。佐。就。盛。安。次。と。召。近。着。て。昨。夜。戦。ひ。進
 退。と。賊。の。言。言。寡。と。その。打。粉。と。曲。々。の。向。ひ。が。安。次。の。有。り。隨。ひ。て。平。响。を。う。る。車。姑。麻
 姫。の。武。藝。と。稱。へ。て。その。身。の。拵。を。功。を。初。姑。麻。姫。が。書。院。の。庭。か。て。先。編。哨。の。賊。と。四。個。ま

な。多。く。敷。捕。り。の。一。の。これ。か。よ。り。安。次。們。を。喚。覺。し。て。防。戦。の。准。備。と。速。く。做。せ。り。又。其。賊。徒。の
 前。亭。の。ま。ま。の。打。入。る。の。三。十。許。名。又。後。門。へ。四。五。名。一。時。か。乱。入。る。主。僕。前。後。相。拵。で
 三。つ。敷。果。一。た。る。そ。が。中。の。頭。立。る。の。四。五。名。あ。る。各。身。甲。は。脰。鎧。臍。盾。一。て。或。は。笠。前。と。駄
 ひ。角。弓。と。夾。子。或。は。短。鎗。と。合。せ。ら。れ。も。あ。り。と。大。く。ま。り。敷。捕。る。その。首。級。多。脾。を。附。れ。り。
 又。小。遣。番。唯。と。か。が。一。糸。の。鏢。細。衫。と。被。さ。る。内。中。多。は。疾。病。を。負。ま。り。那。頭。領。か。先。と。逃
 亡。た。ゆ。め。幾。名。も。これ。あ。ん。と。あ。の。あ。り。又。頭。領。と。か。が。一。賊。の。姑。麻。姫。と。戦。ふ。既。か。危。う。り
 折。支。當。黨。の。封。助。か。よ。り。引。外。と。逃。亡。し。る。の。ま。の。為。体。見。の。ゆ。え。は。あ。る。も。漏。れ。と。辨。古
 爽。小。次。第。と。文。系。を。報。へ。り。就。盛。只。顧。感。嘆。と。せ。り。倍。々。の。姑。麻。姫。の。武。藝。胆。勇。其。の
 鞆。繪。半。額。も。思。へ。物。の。數。る。ま。女。中。の。夫。夫。と。い。ま。く。の。生。口。并。ぶ。衆。賊。の。首。級。就。盛。無。様
 受。取。ら。し。よ。と。京。都。へ。送。る。ま。け。で。お。下。知。お。從。ふ。と。答。て。正。直。の。う。ち。對。ひ。く。衆。賊。の。乱。入。夜
 半。と。い。ふ。も。本。子。部。殿。正。直。の。姑。麻。姫。の。宿。所。と。然。ま。る。遠。く。の。あ。ぬ。援。兵。の。期。の。遇。ふ

下見の甲斐もあらず。怠慢の罪もあらず。是等のよしを明々地々管領家へ執事せしめ、
 異日の御沙汰心にとぞ。その美を恐れ念ひつゝ、便直を旋りて那逃亡の賊の頭領を
 捕捕てまゐる。然るに秋の轉して、秋の轉して、秋の轉して、秋の轉して、秋の轉して、
 當城よりも悄悄の緝捕使臣を遣はし、穿穴を断るべし。先づこの意を込めぬと
 苦く、お空君も示せ。正直听々、赧然と汗を流す。額を拭くも、好意を謝し、告別して安
 次并の伴當をいそぎ、城を退りて河備の宿所へいそぎ、とも樹野々として、樂まざる物を
 おののち、馬の足掻も果敢あらず。かき路の長、早稲の穂、秋の風、秋の月、短く
 下晡のころ、時候を急ぐ。歸宅の及、安次、その第まで、正直を送り、来り、告訢の首
 尾の耳から、欽び、演別を生じて伴當を、七町、六町、餘り、八九村の井、社院と投て、還りけり。

第三十四回 喪子の恨、五十槍、魚書を作る
 投名の、悔、荷、二、郎、同、思、を、陥、る

御説の朝、五十槍、電次、隆光、千劍、破村、宿所、天の明、程、小、嘯、囉、八九
 名、各、淺、癩、を、負、ひ、逃、て、八九、の、莊、院、より、来、り、長、總、馬、起、出、り、吏、の、要、を
 驚、ぶ、大、家、聲、を、惜、み、て、昨、夜、の、拵、了、酷、利、の、小、頭、領、と、首、と、て、股、肱、達、の、皆、敵、の
 大、頭、領、と、い、ひ、の、ま、安、危、を、知、ら、ば、と、の、先、の、う、と、被、票、元、と、や、多、く、脱、れ、
 還、り、た、と、い、ひ、長、總、の、あ、ま、ま、い、の、お、せ、ん、と、ま、り、の、涙、吐、き、色、著、然、と、立、見、居、て、見、思、入、難、て
 多、くの、吏、の、趣、の、根、穿、り、葉、を、欲、り、鞠、を、小、嘯、囉、們、の、送、代、り、小、姑、麻、の、姫、主、僕、の、智、謀、勇
 悍、豫、那、板、と、直、耳、前、後、の、門、内、相、柱、と、敵、麻、非、け、る、為、体、首、と、い、ひ、懸、々、尾、の、首、様
 々、々、の、と、今、見、る、と、夜、の、光、景、話、説、巧、者、の、品、を、漏、れ、一、五、二、十、の、外、事、を、
 倒、れ、真、の、お、ん、を、顛、倒、せ、し、め、听、く、眉、の、火、の、想、一、家、の、破、滅、吏、の、妻、卦、の、身、の、吉、凶、を、一、ひ、難、て
 今、は、小、淡、々、一、休、の、胸、算、木、投、頭、を、困、ら、せ、浩、如、の、隆、光、の、辛、く、必、死、を、免、れ、背、門、
 より、か、の、お、の、長、總、を、か、か、り、て、汗、秋、や、俺、野、天、然、と、美、意、の、多、り、秋、と、同、く、馳、て、速、く、

去迎せり程。隆光一聲阿吶呼び。俯置か介き。長總并の小嚙羅們的吐唾をせり。驚
 死。抱き起し。喚活の薬水。水と樹と盡き程。隆光も息出で。頭を拾ひ。右目を見。長總は
 謀を多し。丙丁の毒。還り。入る。ひら。膝を組直。七杵を。任ま。りの。凄。焼。の。屈。を。我。の。心。を。只
 櫻の実の獨子多。雷九郎と姑摩姫の數も。恨。胸。の。満。ち。憶。を。氣。絶。を。う。け。ん。成。敗。の。時
 運亦在り。悔。その。甲。斐。の。多。く。存。命。を。我。思。の。興。の。異。日。然。と。復。入。る。我。金。瘡。の。妙。法。あり。
 若。們。も。こ。と。用。ひ。よ。と。腰。の。着。る。藥。籠。の。件。の。茶。を。合。平。と。先。身。の。疾。の。こ。と。塗。る。の。小
 舟。の。及。び。所。の。長。總。の。傍。り。と。布。の。七。腰。け。を。せ。り。程。の。小。嚙。羅。們。も。其。の。茶。を。賜。を。と。と。と
 用。の。疾。痛。立。地。の。退。き。起。居。自。由。の。多。く。中。の。小。昨。夜。提。頭。之。荷。二。郎。們。隊。小。屬。と。
 那。莊。院。の。後。門。路。より。打。入。る。小。嚙。羅。の。二。三。名。あり。隆。光。他。們。同。く。その。時。提。頭。三。六
 八。九。の。若。黨。隅。屋。復。二。郎。安。次。が。投。石。の。撃。れ。死。す。る。又。荷。二。郎。の。夏。の。初。の。外。の。虚。実。と。探
 らんと。獨。潛。入。り。の。久。く。多。き。せ。ま。ま。と。存。亡。安。定。を。傳。へ。り。と。初。に。听。く。遺。恨。の。地。憶。也。

嗟嘆と。多。く。と。荷。二。郎。の。生。拘。れ。致。せ。れ。二。椿。の。二。椿。の。錯。つ。と。又。荷。二。郎。の。姑。摩
 姫。の。刀。太。の。當。り。か。て。必。是。擊。れ。き。ん。ま。り。を。這。餘。の。隊。下。の。痛。疾。の。よ。り。退。難。く。生
 拘。れ。も。多。く。入。り。開。が。拷。問。の。痛。楚。の。堪。え。不。了。分。明。を。我。身。の。利。害。其。首。あり。い。の。小
 ま。だ。と。當。面。の。眉。で。額。撞。り。身。の。小。嚙。羅。們。頭。を。撞。き。寔。然。と。答。へ。る。長。總。は。只。呆。と
 果。て。亦。一。更。の。計。の。野。を。知。り。け。り。姑。且。と。隆。光。の。思。念。の。心。を。解。き。長。總。の。命。を。と。り。
 我。妹。の。命。の。真。愛。の。多。く。夜。柙。の。事。守。り。ま。す。遊。佐。より。緝。捕。の。沙。汰。あり。ま。す。雷。九。郎。首。を。と。
 股。肱。の。甲。乙。舊。の。ど。ろ。多。く。共。伴。の。這。里。あ。の。亦。怕。も。足。ら。ね。と。今。の。甲。斐。の。人。の。數。を。と。り。
 あ。れ。其。の。残。る。絶。の。八。九。名。を。れ。も。疾。肩。の。臥。猪。の。床。の。獵。前。御。を。も。あ。ね。三。六。計。走。る。の。
 多。く。資。財。雜。具。を。遺。す。竊。が。り。俱。他。都。走。る。大。家。腹。を。解。き。准。備。せ。り。と。い。ふ。と。
 未。炊。僕。們。の。餘。の。もの。縁。由。を。多。く。知。り。ん。と。速。電。を。在。り。も。と。隆。光。の。又。是。の。の。の。の。
 腹。の。立。た。せ。ん。術。も。多。く。丙。丁。一。兩。名。危。瀕。の。境。に。七。炊。を。せ。よ。の。餘。に。我。と。共。伴。の。真。愛。

東西の擔造のね長總も焦る折の物と思ふと人必要なり。金銭衣裳と取調ひ。行の準備を急ぎ快々立ねと焦燥する火速の指揮の長總の滅没の心を燃えたる皆共侶の身と起えし母。程次の回入りのや。等々人々を喚禁める聲と共備を撲地と推崩れ。徐の杖を寄る者さるれば毛別人多む木綿張の荷三郎の身も瘡を肩を打扮昨夜の俵の中。背の東西のむらび多。袂色を敷くひれ人皆訝る中か隆光も聲を被く。木綿張和殿の送るもの今還り。故をわめ既に。我密談を那里小偷く。飲他御へ走んま。火速の準備を禁め。是甚多情由。何の回か荷三郎の傍小坐を占め背の。袂色を解卸し。亮も笑み多。隆光の對公事の懸。救票を。訝る多。理の。徐の杖を多か。却昨夜在下の暗跡の火光の待不樂の。獨那莊院の潜入。那這と現。程の前後の門より諸頭領の齊一打入り。及ぬる兵响高く。登時在下の。這莊院の主様の速速に機を奪ひ。奥の悄語の聲は

止る。見ぬ。防が。下。き。入。出。前後より。操合。攻。利。を。人。我。の。虚。眼。入。一。千。金。を。竊。え。き。尋。思。ま。り。夜。敷。の。場。面。出。せ。び。ま。ま。身。を。潜。め。那。庫。藏。へ。入。り。其。頭。の。婢。妻。毎。の。袋。番。多。奔。走。走。る。遂。に。屋。尻。を。鑽。り。入。り。然。る。と。も。出。る。入。る。を。替。子。の。下。に。潜。躲。ま。て。便。具。を。覗。ひ。今。番。の。棒。子。の。内。に。湯。も。然。り。も。猛。か。る。人。々。の。打。散。れ。り。と。天。の。朗。々。と。明。し。候。姑。麻。の。姫。の。叔。父。楠。正。直。具。加。勢。の。興。の。幾。十。個。の。土。兵。を。俱。ろ。と。め。け。れ。と。ま。さ。の。祭。の。事。の。要。立。の。の。姑。麻。姫。と。若。黨。の。復。二。郎。安。次。の。對。の。與。書。院。の。在。り。然。而。実。檢。の。果。下。り。正。直。主。從。が。早。飯。の。割。籠。を。披。く。と。前。茶。の。儲。湯。よ。水。よ。と。圖。宅。の。奴。婢。們。奔。走。て。奥。の。人。の。あ。り。た。り。その。虚。を。覗。ひ。立。出。り。那。這。と。多。相。違。り。是。を。と。ま。り。東。西。の。あ。り。左。右。の。程。の。姑。麻。の。姫。の。便。室。多。一。思。入。一。室。の。潜。入。り。書。架。の。書。籍。の。目。か。り。又。西。の。系。横。三。尺。多。社。壇。の。外。わ。り。く。



有様



人々の世の秋を夢みる
残照は紅霞染
夕陽は紅霞染

考るべきは、ねりこまき、れ。金。いさ。えの。うちこ。まき。の。注連を引巨。自練の小幕を垂れ、何のあつんと、遠く、掛用を、内さる、菊水の
 花躰着る、黒漆の箱一箇あり、神像を、絶て、會、抗、試、の、重、る、た、ら、ち、も
 措れ、其、頭、の、わ、け、の、袂、の、裏、に、偷、合、の、り、狗、寶、の、腕、中、に、還、る、山、路、の、樹、蔭、を、件、の
 箱、を、用、い、る、の、原、是、二、重、相、の、七、内、の、亦、菊、水、を、搥、撒、金、を、抽、出、せ、る、軟、便、草、の
 も、匣、の、訝、り、を、緒、言、見、し、は、皆、金、器、を、ひ、れ、も、然、と、棄、て、東、西、の、わ、ね、が、着、れ、
 下、の、袂、の、包、を、ひ、き、背、の、あ、つ、心、の、か、る、頭、領、の、安、危、を、も、同、心、を、方、僅、背、の、あ、つ、
 料、も、逐、電、の、密、談、を、も、穿、て、詞、の、腰、を、横、遭、り、折、の、觸、れ、を、膝、も、商、量、且、所、更、
 別、議、の、あ、つ、在、下、八、九、莊、院、の、簀、子、の、下、の、身、縮、り、久、く、躲、き、あり、折、那、首、の、奴、婢、
 們、の、噂、せ、事、の、始、末、を、洩、れ、る、生、拘、り、る、火、家、の、内、丁、口、具、合、名、を、ひ、き、も、後、月、路、の
 在、り、の、入、の、那、安、次、が、投、石、の、敵、を、れ、も、齒、を、鼻、を、ま、り、れ、け、同、じ、物、を、ひ、き、も、
 小、さ、る、二、人、の、深、癩、の、堪、げ、は、牽、縮、れ、る、程、の、多、俱、の、息、絶、り、も、以、て、鬼、魅、を、誰、が、招、了、

老、更、の、露、見、及、か、免、猫、と、却、と、走、帆、の、商、談、且、休、息、急、ぎ、要、る、程、の、多、と、落、着、白、の、解、語、
 を、隆、光、は、く、も、所、も、優、る、和、殿、の、才、覚、死、門、の、入、り、の、あ、つ、味、の、事、を、送、り、
 知、り、の、味、妙、と、生、拘、り、る、四、個、の、隊、下、の、兩、個、の、腕、息、絶、り、殘、る、深、癩、の、り、の、後、安、次、
 似、れ、も、不、幸、の、七、の、瘡、瘡、を、招、き、も、定、め、ら、り、加、梅、留、守、が、奴、們、の、破、敗、を、知、り、
 以、未、明、の、齊、二、逐、電、を、の、惜、む、程、の、多、身、の、連、累、を、免、れ、と、首、訴、を、送、り、
 甚、麼、と、具、を、荷、二、郎、が、微、笑、を、宣、う、生、拘、り、る、痲、負、の、火、家、が、投、石、傷、の、命、も、物、
 の、程、の、多、又、留、守、を、鑊、錢、の、舌、の、敗、れ、耳、怕、く、首、訴、を、の、あ、つ、以、釋、便、直、の、
 多、と、思、按、の、在、下、一、箇、の、簀、子、あり、且、試、の、出、入、を、揮、り、
 軟、の、隆、光、の、側、に、長、總、の、心、地、と、小、嘍、囉、們、共、侶、の、骨、を、膝、を、找、り、の、登、時、
 木、綿、張、荷、二、郎、の、偷、來、る、袂、包、を、箱、の、蓋、を、那、這、と、壞、く、解、開、せ、る、然、而、隆、光、其、の、
 見、也、這、二、重、匣、の、内、は、是、楠、の、家、の、什、物、錦、の、御、旗、菊、水、の、旗、並、に、南、帝、の、教、書、也、又、

正成正行の軍令狀正勝正元弟兄の自筆の文署のヨリ申す。那這と用き
 見らるる正元の自筆多し軍兵催促の二通多。その文言の早奉為朝廷。駐催忠誠勇士
 而可起勤王義兵事。云云七月廿八日河内守橘朝臣より今在下の筆書策あり。此
 是と降光多る。亦い多計略。同く荷二郎聲を低め。悟り多。此
 橘朝臣も傷多。偽筆を者不課。橘女姑摩姫との不字と年跡花押を加え。
 錦の丸旗菊水の旗南帝の教書と共に身多。齋と止直ま。弟の赴き。那人對面
 る折情を地不訴。知多。貴所。果。同伏。妹。姑摩。姫。刀。祈。將軍家。を
 數り。今と欲。逆心。今。休。多。比。捕。れ。悔。を。刺。首。多。多
 困恩。思。専謀。及。の。命。然。南。朝。殘。餘。の。武士。と。相。諱。ひ。義。兵。を。起
 え。鐵。を。研。ぎ。既。今。急。在下。當。初。正。勝。ま。も。屬。の。青。綠。も。知。り。連。の。招。き
 哄。誘。と。商。談。敵。の。定。れ。不。意。の。起。選。佐。殿。貴。所。と。先。滅。多。當。國。と。討。從。人。計。較。を

上。侍。々。在。下。昔。年。謬。御。合。見。正。勝。主。從。ひ。れ。も。南。北。西。朝。の。御。合。體。の。後。の。室
 町。將。軍。家。の。御。武。德。を。仰。き。ま。り。と。其。甚。麼。を。婦。幼。の。及。逆。の。荷。擔。七。合。作。三。張。の
 弓。を。亦。り。し。や。れ。も。虚。笑。を。知。ん。與。陽。也。且。其。の。意。不。從。ひ。謀。及。の。計。誤。不。與。り。て。姑。摩。姫。料。多。む
 懐。ひ。く。の。向。後。を。憑。む。と。錦。の。丸。旗。菊。水。の。旗。并。軍。兵。催。使。の。文。署。一。通。を。相。添。と。在。下。の
 預。け。の。信。れ。の。野。心。分。明。之。情。を。地。貴。所。と。遣。佐。殿。首。許。せ。多。思。ひ。ら。せ。思。ひ。旋。り。多。在。下
 千。劍。破。の。御。士。可。も。國。家。の。恩。澤。を。蒙。り。多。一。人。の。功。も。平。且。辛。來。其。執。事。と。人。知。れ。ら。る
 甲。斐。の。や。侍。々。の。小。寇。を。多。征。ま。と。克。多。國。守。を。勞。き。外。周。實。義。不。違。多。似。す。り
 討。滅。七。後。は。是。等。の。意。旨。を。訴。へ。れ。と。獨。尋。思。多。う。入。股。腹。の。八。人。甲。し。們。榮。自。餘
 生徒。の。情。を。合。謀。一。合。多。隊。兵。銳。の。三。十。餘。名。の。夜。八。九。の。莊。院。を。推。寄。り。し。み。船。方。の。友
 中。の。者。あり。敵。の。機。密。を。知。れ。多。之。の。戰。ひ。合。期。を。抽。郎。雷。九。郎。隆。成。を。首。と。七。獲。切。多。八。人
 四五。名。の。餘。雜。兵。の。至。る。多。戰。没。の。程。在。下。も。亦。わ。の。如。く。痛。癩。を。肩。ひ。り。退。き。たり。

志の宿意を知る人なれば夜偷の強人多し。もいふれ戦没の首級生拘の雜兵を遊
 佐の城牽れり。風聲のよもて安知の在下那美之初より訴りて千慮の一失後悔の外も
 尤恥を多し。已てをるを執忠の宿意。自今告訴及る願多し。是等の趣を遊佐殿に
 達せられ討の軍兵を差向の在下を先を任りて姑麻姫主僕を撃つ果し上を國恩の救ひ
 たり。下我兒雷九郎と俱に戦没せし人。人々樂然と雪其。稟を野詐詭を毀壞は是
 實事多し。愁訴をこの條の旗と共に偽書せ。催促状と遊與一多計畧立地の
 行れ。姑麻姫を撃つを。然るに私死を復す。思賞の大なる室所將軍の
 御家人の成登り多し。幸ひわん。這議のふと眞實と。語言巧。其ま示其隆光。花忽地
 用は。大なる憶。願加え。通愛の妙計。我與の諸葛孔明。感
 承。従ん。勿論。遊佐氏を這河竹の守護。の。周。姑麻姫と
 叔姪。正直夫訴。其麻。詰。荷。二。郎。在下。當。這。地。人。の。嘆。

笑る。遊佐の。性。狐。疑。多く。決。断。其。甚。遅。かり。正。直。夫。姑。麻。姫。の。止。丸。叔。父。の。い。へ。ど。も。
 親。の。時。も。南。北。別。れ。仕。へ。の。は。今。至。中。多。り。陽。也。他。多。る。陰。也。選。分。を
 磨。ぐ。雙。言。敵。由。異。る。と。這。頭。の。人。皆。い。の。を。左。右。思。を。在。遊。佐。へ。訴。多。那。人。狐
 疑。の。釋。休。止。直。夫。商。量。せ。登。時。又。正。直。の。身。功。多。ら。ん。と。階。多。く。云。と。談。論
 起。時。日。後。れ。機。密。の。洩。る。と。あ。る。下。然。遊。佐。訴。多。止。直。夫。先。數。多。那。人。必。身。の
 功。多。る。と。喜。び。信。就。盛。主。提。成。下。遊。佐。亦。正。直。真。姑。麻。姫。の。後。見。也。且。叔。父。多。る
 用。捨。多。る。又。逆。の。訴。多。忠。義。と。稱。て。疑。多。く。信。悦。の。誤。り。任。せ。ん。在。下。計。る。処。を
 大。要。の。後。の。悟。の。多。と。辯。舌。未。論。謀。慮。の。圖。當。る。似。れ。隆。光
 の。感。悦。と。奇。才。々。々。と。稱。れ。長。總。並。小。嘍。囉。們。の。耳。を。傾。け。賞。賚。七。夏。成。る。と。後
 け。當。下。五。十。榎。隆。光。小。嘍。囉。們。と。喚。被。若。達。の。ゆ。ら。ん。我。明。日。齋。を。三。種。の。丹。中。細。子
 用。文。罽。之。舊。の。蹟。多。く。似。せ。く。件。の。五。字。と。年。跡。を。寫。得。る。の。あ。る。と。問。ひ。り。四。下。を。見

東國の浪人木綿張某申との密訴の與り推参し對面を請ふ。其時、
 類單もその何復かあるんぞん思ひ合はる。一、大夏を告ぐれば對面を請ふ。
 快々其頭の準備をせし。敦義も告ぐ。快々其意を告ぐ。若黨の阿と志の
 果ては遠巡との立寄りの却説木綿張荷三郎の玄關の留められ。等と約莫半响許執接の
 若黨も其意を告ぐ。荷三郎も對面を請ふ。趣を即便披露及及びい
 老爺對面を請ふ。卒這方へと先立客房の案丹を告ぐ。皆下補正直其老爺
 湯淺風爐八郎敦義と一個の小侍と相從する。身の客房の上座の在り。菊燈臺
 三隻、四隻、汝那這の點一の大蠟燭照耳して小心の体をえりけり。却荷三郎も執
 接の若黨も引れり。席に入る折、中刀扇子と次の間、扇を告ぐ。膝行して杖を
 正直火先就く。侍くとも。東國の浪人木綿張氏荷三郎と和太と一、大事の
 密訴とわれ。薄暮も對面を請ふ。聽ん何復か。荷三郎頭を指し、淨浪の

身をもえ。國家の與り貴所の與り見參を請ふ。其時、
 何復かこれの優を宛然と靴等と。稟上を告ぐ。憚る。も。左右を退け。か。
 と。正直領を告ぐ。趣を告ぐ。但、這一人、我家の老僕。素より腹心の
 氣の斟酌及及。その餘の者、快々。若黨小侍者、俱、次の間、退け。荷三郎
 れ。目送り。膝を杖。密訴の次第言長。先、稟上。在下原を
 鎌倉武士の管領持氏朝臣仕。微禄の雜色。聊行。身
 暇。賜。地の所親。則、妻を携。千劍破村。尋、來。樹の下
 雨。漏。所親夫婦の身故。跡絶。進退。其首。合。七。折。入
 媒。儘。七。即。那村の郷士。手。電。次。隆。光。武。藝。の。弟子。若。黨。の。子。
 共。宿。他。仕。月。來。を。終。誰。知。隆。光。素。強。入。の。頭。領。生。徒。と
 倡。皆。悉。文。黨。之。然。隆。光。石。川。郡。の。民。舎。を。犯。折。他。郷。赴。夜。偷

前徑を古く做せし。他所より這地の偷見来れ。涉獵を必殺せし。地方の民を驚かせし。れ。畢竟隆光が強人多し。知りたるもの。必死に在る。亦これ比。他は悪言を知りて。他は。只管酒を嗜み。色を好み。勢を以て任之。無盡に我妻を奪ふ。妾を奪ふ。任而。隆光。獨子雷九郎隆成。が意旨を任。密議を礙。七貴所の姪。姑摩姫御寮の嗟嘆の院。賜り。二千金を掠奪。んと。支黨都。二十餘名。次の夜。八人の莊院。夜偷。打。姑摩姫主僕の勇戦。小勢を。殺断。隆光。獨子隆成。並。雲館奇峰。出。杖頭。三。百。數。振。平。曾。及。鼠。坊。八。と。喚。彼。宗。徒。の。強。人。五。六。名。小。嘍。囉。十。許。名。件。の。主。僕。不。數。捕。り。て。隆。光。の。痕。を。肩。か。り。逃。て。千。劍。破。の。宿。所。へ。還。れ。り。在。下。の。那。夜。支。將。と。べ。の。れ。か。か。の。病。阿。の。推。け。辞。ひ。も。ぞ。余。程。隆。光。の。子。并。小。股。肢。の。火。家。言。言。く。數。せ。し。と。大。恨。と。誓。言。を。復。え。と。談。ま。折。に。校。小。嘍。囉。の。天。明。く。獨。る。を。あ。ら。う。と。あ。ら。う。と。那。莊。院。の。奥。深。く。潛。ひ。入。り。て。姑。摩。姫。御。寮。の。秘。措。き。たる。錦。の。丸。旗。菊。水。の。旗。南。帝。の。救。書。補。三。世。の。

遺墨を。二重箱と共。偷。の。う。と。隆。光。の。目。見。せ。隆。光。深。く。懼。び。心。の。ま。り。奸。計。を。思。ひ。起。せ。秘。密。の。魂。胆。を。趣。を。恣。々。と。下。の。小。嘍。囉。們。の。長。示。を。在。下。料。を。竊。用。と。一。五。十。具。の。知。り。ぬ。の。奸。計。の。箇。様。々。と。以。購。と。半。响。許。御。向。の。身。が。隆。光。の。説。唐。の。計。較。を。外。更。か。し。点。宅。の。漏。れ。を。峰。の。峯。を。添。て。具。告。れ。正。直。數。書。且。呆。れ。て。あ。り。と。向。と。飲。む。時。荷。二。郎。が。又。も。那。隆。光。が。奸。計。の。這。一。椿。皮。の。ま。貴。所。と。並。遊。佐。殿。の。積。計。の。課。せ。姑。摩。姫。御。寮。を。討。滅。し。功。の。遊。佐。の。城。へ。斬。入。る。と。便。宜。復。い。就。盛。主。を。只。一。刀。刺。殺。し。那。城。を。奪。ふ。兵。權。一。び。入。り。河。内。を。略。し。と。の。勢。力。の。大。和。を。破。り。從。ん。と。大。望。を。企。つ。最。憚。り。の。言。を。姑。摩。姫。御。寮。を。説。訃。し。那。身。の。怨。を。復。し。給。ふ。只。是。小。事。之。就。盛。主。を。刺。殺。し。河。内。大。和。を。入。れ。と。計。較。の。果。大。事。在。下。他。が。穢。れ。る。行。ひ。を。知。ら。ず。と。洋。浪。の。便。者。を。故。權。且。寄。宿。を。せ。し。と。這。潔。白。の。身。を。以。虎。狼。の。奴。れ。做。果。の。情。々。地。が。這。義。を。許。さ。す。那。強。盜。を。誅。伐。せ。し。國。家。の。光。榮。也。

忠告多し我私に最急の妻を奪取せしむ。恥を感ずる時五夜に。多きより。越へ住い推
 参仕りぬ明日隆光が来る折力士を帷幕の内を伏せしめて敵を捕らふ。在下の亦便直を旋りし。
 隆光が俱と来て二臂の力を勤まへ。稟を所相違ひ。身は天雷の震死。死に永劫墮獄の苦難を
 受ん急々律令如律令と天の誓言の地を盟の意。東他事多し。止直連りの敗嘆。其威
 嚇に大々多し。傷か措かざる。肩を合ひて。歌杖かして。麻小突立。雲時頭を傾け。却荷二郎が
 對ひて。听く空を。天晴忠告。定は國家の免與。免は賞禄。を不依も。那隆光が。我
 亦人の噂。知り。義侠の武人と。多しの。夜姪女の。莊院を。開く。那強人の。頭領。件の
 隆光。げり。神を。誰。亦。よく。知。今宵。密許の。趣。遊佐氏。通達。明日。隆光が
 我第。来。折。城内。の。隆光が。千劍。破。の。宿所。緝捕。の。野兵。向。られ。支。遣。捕。ら。る。の
 我。あ。る。は。れ。荷。二郎。教。へ。ま。る。免。免。計。ひ。す。あ。る。事。も。在。下。の。妻。長。總。取。り。取。り
 我。那。里。在。の。緝。捕。の。大。勢。向。折。の。美。の。詞。添。れ。た。愛。顧。願。ふ。は。止。直。も。あ。る。の。受。り。心

安か。通達。の。期。及。び。も。原。是。女。流。の。の。れ。暴。を。ま。り。の。あ。い。ま。の。あ。る。の。あ。る。得。り。
 と。語。ひ。密。談。果。か。荷。二郎。別。告。て。在。下。這。里。の。夜。深。隆。光。の。疑。れ。又。の。障。り。の。あ。る。の。あ。る。
 明日。見。参。の。の。の。止。直。留。難。て。ま。る。の。意。の。儘。一。度。其。明日。を。緊。要。に。快。退。出。の。
 と。身。の。暇。取。り。が。荷。二郎。の。意。氣。揚。々。と。次。の。間。へ。退。き。又。若。黨。の。送。り。初。の。と。く。あ。る。の。
 千。劍。破。村。へ。還。り。の。杖。の。桶。正。直。の。御。向。就。盛。不。審。め。れる。身。の。懈。怠。罪。を。怕。れ。胸。を。存。り。
 は。料。の。剛。才。荷。二郎。の。密。許。の。心。花。用。け。の。欵。ひ。大。々。多。し。を。信。る。う。の。速。の。就。盛。謀。合。を。
 明日。五。千。槍。隆。光。の。這。処。の。捕。捕。又。他。の。宿。所。の。遊。佐。の。緝。捕。使。を。遣。し。の。巢。穴。を。掃。く。
 止。直。の。思。考。の。云。云。と。消。息。を。書。寫。の。老。當。湯。湯。夜。敷。義。の。口。狀。を。言。示。し。件。の。消。息。を。齎。
 遊。佐。の。城。を。遣。は。火。速。の。使。多。し。の。致。義。の。主。の。正。直。が。乘。馬。を。借。り。の。あ。る。の。あ。る。の。あ。る。の。あ。る。
 の。夜。二。更。の。比。及。遊。佐。の。城。騎。着。止。直。の。消。息。を。就。盛。の。口。對。面。を。請。て。本。締。張。
 荷。二郎。の。密。許。の。首。の。尾。を。漏。れ。就。盛。の。演。達。し。明日。隆。光。の。宿。所。へ。緝。捕。の。



たらのちのちとあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
荷二郎奸計帝隆光
あつたあつたあつたあつた

ひげ三の巻
第三十五回
のすくめふ
たえしう

有徳屋主人



有徳屋主人

有徳屋主人

精兵を遣ふ。その隊合之用が就盛驚き且懼ひする。平根隆光は謙世の風聲の
 傳へたるものか、義伏愛を武人多くも濁りて思ひ誰か知る。金山の寺に強人を
 他謀れど姑磨姫一個の心を思ふ。お正殿もその奸計に乗せられ我倚他信用を
 禍蕭牆の下より起て國の乱る。然るに密許の者も之積悪並發見する。幸も他
 死と贈り慢の其許末も人必力量武藝長も。捕捕の易多。是併李都殿
 武運の稱ひ意外の大幸歟。何莫致れ。優美隆光の宿願。我多。ち向の塵を遣
 捕捕。明日隆光を多逃。を這里の力士十名許。遣と捕捕の
 折の幫助。義と具の傳。先教義。答。七力士。其の
 擇ひ。畢竟。平根隆光。荷二郎。謀。遠。伏誅。不。這回。見。然像
 看ても。猜。多。詳。知。又。這。卷。首。解。分。を。聽。か。

開卷驚奇伏見傳第四集卷之二終

122
25
15



